

実践報告

総合型地域スポーツクラブの指導者養成
—愛知県半田市の事例—
Sports coaching seminars of Comprehensive Community Sports Club
in Handa City, Aichi Prefecture

山根 真紀
Maki YAMANE

日本福祉大学 スポーツ科学部
Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

キーワード：総合型地域スポーツクラブ，指導者養成，半田市，事例

I. はじめに

総合型地域スポーツクラブは、生涯スポーツの振興を図る地域スポーツの推進役である。スポーツ庁のホームページにはその役割を以下のように記載している。

総合型地域スポーツクラブは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

我が国における総合型地域スポーツクラブは、平成7年度から育成が開始され、平成29年7月には、創設準備中を含め3,580クラブが育成され、それぞれの地域において、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たしています。（スポーツ庁ホームページ、総合型地域スポーツクラブ）

半田市では、平成7（1995）年度から3か年、文部省（現文部科学省）の「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」の指定を受け、成岩中学校区をその実施地区とし、「成岩地区少年を守る会」を推進母体として、平成8（1996）年3月に「成岩スポーツクラブ」を設立した（半田市教育委員会、1998）。

「成岩地区少年を守る会」は、青少年の健全育成のために、40年近い活動の歴史（1995年当時）を持ち、平成6（1994）年から「成岩スポーツタウン構想」を提唱し事業を展開してきた（榎原、1996）こともあり、「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」の推進母体としてまさにうってつけであった。

半田市は成岩スポーツクラブの活動の成果を評価し、平成10（1998）年度から各中学校区に1か所の総合型地域スポーツクラブの設立を開始した。その推進組織として半田スポーツ健康推進協議会（以下 CLUB2000）を設置し、戦略プラン「HANDA Sports Life Project2000」を展開した。CLUB2000

は平成10年から平成12年までの3カ年の時限組織で、この間に各中学校区単位でクラブ設立の準備委員会を設置することがねらいである。CLUB2000の実施事業費は、文部省が平成10(1998)年度から制定したスポーツ・健康推進地域モデル事業の委嘱謝金として獲得した(榊原, 2000)。CLUB2000は年度ごとに事業テーマを策定し、総合型地域スポーツクラブ育成の啓発、イベント実施やスポーツクラブ創設促進、登録指導者の資質向上に着手し、成果を上げてきた。その結果、平成14(2002)年度には、図1、表1に示すように、半田市の中学校区すべてに総合型地域スポーツ

クラブが設立し、現在に至っている。5つのスポーツクラブは、「多種目」「多世代」「多志向」の特徴を保持し、自主的に運営されてきたが、発展の仕方はそれぞれで、現在の会員数(表1)が示すように、規模もさまざまである。

半田市は総合型地域スポーツクラブの設立と同時に指導者養成も手がけ、地域スポーツアシスタント養成研修会を主催し、2001年から現在まで独自に実施してきた。心身の発達途上にある子どもたちを指導する者は、単に技術指導ができるばかりでなく、過度な運動量が及ぼす弊害や早期の選手育成の問題はもちろん、指導者による暴言やハラスメント

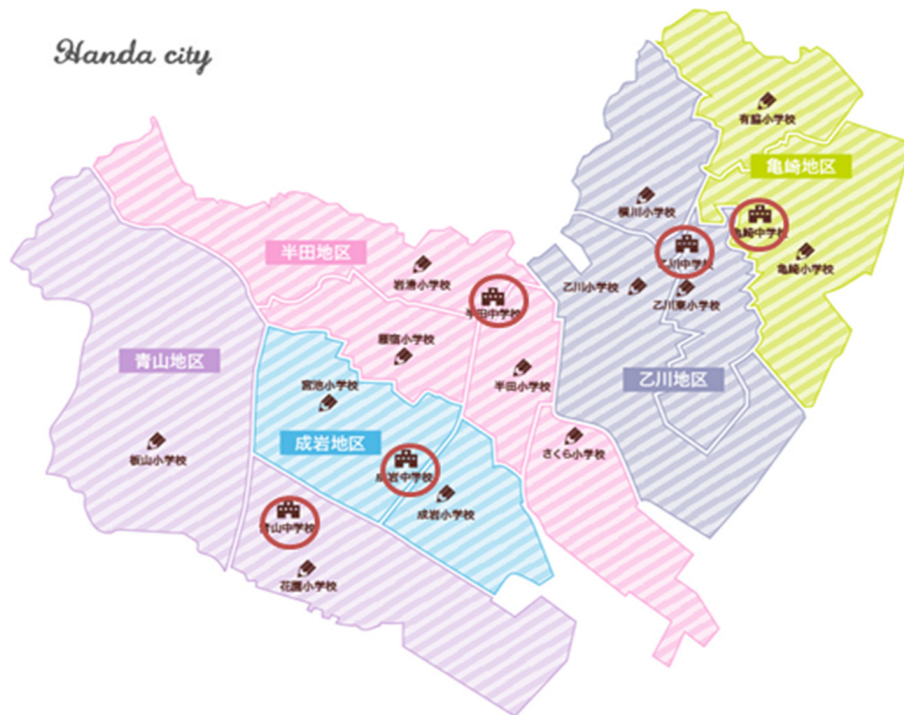


図1 半田市の中学校区と総合型地域スポーツクラブハウス(○印)

(参照: 半田に住むならどこ? 半田シティプロモーションサイト, <https://www.handa-life.jp/living/live.html>)

表1 半田市内の総合型地域スポーツクラブ

中学校区	クラブ名	設立年月	会員数 (R4.2)
亀崎中学校区	スポーツクラブYOUKI	平成11年5月	526
乙川中学校区	一般社団法人乙川スポーツクラブ	平成13年5月	2057
半田中学校区	半田地区スポーツクラブ	平成15年2月	1582
成岩中学校区	NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ	平成8年3月	2902
青山中学校区	青山スポーツクラブ	平成13年3月	282

※半田市内の総合型地域スポーツクラブの紹介: <https://www.city.handa.lg.jp/sp-orts/bunka/leisure/leisure/chiikispotrs/shokai.html>、参照

などの行為の根絶についての理解も求められ、指導者の資質向上が研修会の主なねらいであった。

筆者は地域スポーツアシスタント養成研修会の講師およびコーディネーターとして実施当初から関わってきた。そこで本稿では、約20年間継続してきた半田市独自の指導者養成に対する市の取り組み状況を概観し、これまでの登録指導者の特徴や研修会の実施方法などについて報告し、今後の課題について提案する。

II. 半田市のスポーツ振興計画と総合型地域スポーツクラブの指導者養成

半田市は、平成13(2001)年度に「生涯スポーツ社会の実現に向けて」をテーマに平成22(2010)年度を目標年度とした半田市スポーツ振興計画を策定した。その基本的な理念は、市民が、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しむことができる社会、すなわち「生涯スポーツ社会」の実現を目指したものである。

平成22(2010)年度には、さらなるスポーツ振興を推進するために第2次半田市スポーツ振興計画を策定し、市民に親しみのある計画となるよう「エンジョイ!! SPORTS はんたプラン」というサブタイトルを付け計画を推進した。第2次半田市スポーツ推進計画(「スポーツ基本法」の施行に伴い、計画の名称を「第2次半田市スポーツ振興計画」から「第2次半田市スポーツ推進計画」に変更)(半田市報:2016, 4/1)が、令和2年度で計画期間の終了を迎えることから、理念等を継承しつつ、年々変化するスポーツを取り巻く環境に対応するため、新たに目標年次を令和12年度とする、第3次半田市スポーツ推進計画を策定した(半田市HP:第3次半田市スポーツ推進計画(令和3~12年度))。

第3次半田市スポーツ推進計画では、7つの基本施策を柱としている。柱の一つには半田市がこれまで全国に先駆けて育成に取り組んできた「総合型地域スポーツクラブ活動の充実」が挙げられ、具体的な実施計画の(1)総合型地域スポーツクラブ運営のための資源の充実では、①人材の確保・養成をめ

ざし、以下のように説明している。

- スポーツ指導者としてふさわしい倫理観を備えた地域スポーツアシスタントを育成するため、半田市独自の資格付与制度としてアシスタント養成制度を継続して実施します。
- 地域スポーツアシスタントについて、上級資格取得のための奨励や積極的な自己研さんのため、社会体育施設使用時に使用料を減免する等、活動支援を継続して実施します。

以上のように半田市では、スポーツ指導者を地域スポーツアシスタントと称し、その養成に引き続き力を入れていくことが示されている。

この章では、地域スポーツアシスタント養成研修会の開催経緯から実施方法について概説する。

1. 地域スポーツアシスタント養成研修会開催の経緯

平成10(1998)年に設立した半田スポーツ健康推進協議会(以下 CLUB2000)はスポーツ少年団や小中学校教員など子どもたちのスポーツ指導に関係する者を主な対象に、少年スポーツ指導ボランティアとして CLUB2000 の登録を開始していた。その登録少年スポーツ指導者の資質向上のために実施した研修会が半田市独自の指導者養成のきっかけになったと考えられる。

CLUB2000 の最終年度2000(平成12)年に実施されたこの研修会は、「地域スポーツアシスタント養成研修会」の名称で、主催は半田スポーツ健康推進協議会(CLUB2000)、共催は半田市教育委員会と財団法人スポーツ医・科学研究所(2022年解散)であった(表2)。研修会はA・Bの2日程、各2日間開催で実施された。オリエンテーションを含め6講座あり、「指導者の資質」、現職スポーツ指導者による「これからのスポーツ指導」、子どもの指導に必要な科学的知識として「科学的に鍛えよう、子どもの身体」「けがをしない、させないスポーツ指導」などが含まれ、A・B両日程で約100名の地域スポーツ指導者が受講した。

2000年度の研修会を引き継ぐ形で、翌年の2001(平成13)年度から、半田市独自の資格付与制度としてスポーツアシスタント養成研修会が開始し、現在まで継続して実施している。研修会の事業費は市

表2 平成12年度 地域スポーツアシスタント養成研修会

主催	半田スポーツ健康推進協議会 (CLUB2000)		
共催	半田市教育委員会・財団法人 スポーツ医・科学研究所		
開催日	A日程:	2000/5/27 (土)	2000/5/28 (日)
	B日程:	2000/6/24 (土)	2000/6/25 (日)
時間	14:00~17:20 (受付13:30~)		

の予算から支出され、2001年度～2017年度までは、(公財)スポーツ医・科学研究所(阿久比町)に委託されていたが、研究所の都合により2018年度から乙川スポーツクラブが引き継ぎ、会場は乙川交流センターニコパルとなった。

2. 地域スポーツアシスタント養成研修会開催の実施形態

開始から現在までの20年間には、実施方法や内容について改良がなされ、現在の形態に落ち着いた。現在の形態とは、8月(前期)と2月(後期)に各1日ずつ実施するもので、午前2講座、午後3講座、合計5講座と確認テストから構成されている。新規受講者は全ての講義を、更新受講者は午後からの3講座と確認テストを受講する。資格更新のためには3年ごとに受講することが義務づけられている。

図2に、令和4年度8月に開催されたスポーツ

アシスタント養成研修会のプログラムを示した。後で述べるが、2020年度～2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で変則開催となっていたが、ようやく2022年度から通常開催となった。午前は新規受講者のみを対象とし、子どもの発育発達や障害予防に関する講座を、午後からは更新の受講者も一緒に参加し、研修会ごとにタイムリーで、話題性のあるテーマを取り上げる「特別講座」、その後実技が2講座続く。実技は現場ですぐに活用できるテーマを選ぶようにしている。今回は、子どものウォーミングアップに使えるラダートレーニングとチーム力を高める仲間づくりゲームであった。また、受講しっぱなしにするのではなく、最後に確認テストとして、研修会の内容をふりかえる時間を持つ。そうすることで、研修内容を整理、再確認することができ、指導現場に効果的に生かすことができると考える。

	時間	内容
午前の部 (新規のみ)	8:25~8:55	受付・証明写真撮影
	9:00~9:10	開講式・オリエンテーション
	9:10~10:10	第1講座:【子どもの体力・運動能力と発育・発達】 講師:日本福祉大学スポーツ科学部 山根真紀
	10:20~11:20	第2講座:【成長期のケガの予防と応急処置】 講師:乙川スポーツクラブ 森敬司
休憩・午後の部受付		
午後の部 (新規・更新)	12:30~14:00	講座:【熱中症アドバイザー養成講座】 講師:大塚製薬
	14:10~15:10	実技第1講座:【チーム力を高める仲間づくりゲーム】 講師:愛知県キャンプ協会 藤井三弥子
	15:20~16:20	実技第2講座【子どものためのラダートレーニング】 講師:日本福祉大学フィットネスセンター 伊藤雅介
	16:20~16:30	確認テスト ☆当日の講座内容から出題します

図2 令和4年度スポーツアシスタント養成研修会プログラム

3. コロナ禍での対応

2020年度と2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、開催方法が変更された。まず2020年度前期は、通常1日で実施している研修会を半日に短縮し、午前、午後各2講座の2部制とし、少人数・短時間で終了する形態をとった。2020年度後期は、「緊急事態宣言」が発出されていたため、オンデマンドを2講座作成し、参加者に視聴いただいた。オンデマンドは初めての試みだったが、「自分のペースで視聴できる」、「好きな時間に視聴できる」、「繰り返し視聴できる」といった肯定的な感想が多く見られた。一方で、やはり実技は対面で実施したいとの声が多かった。

2021年度も引き続きコロナ禍での対応となり、前・後期とも午前午後の2部制として各3講座ずつ実施した。そして、2022年度からは、前述した通常の形態で実施できた。

Ⅲ. 総合型地域スポーツクラブの指導者の特徴

半田市スポーツ課より提供されたスポーツアシスタント養成研修会に参加した2001年度から2022年度までの延べ755名の指導者情報（登録クラブ、登録年度、有効期限年度、種目、性別、登録時年齢）をもとに、指導者の特徴を分析した。

1. 登録指導者数の推移（全体、クラブ別）および登録年数

図3に、スポーツアシスタント登録指導者（以下登録者）数の推移を示した。登録者数は、初回登録年度から有効期限年度までを登録期間として年度ごとに算出した。開始当初（2001～2011年度）の10年間は年々増加し、ここ10年間（2012～2021年度）は約300名/年、新規登録者は20～40名/年程度を推移している。細かく見ると、2013年度以降登録者が減少したものの、2019年度以降300名を確保している。

半田市では平成23（2011）年度まで土日の部活動は総合型地域スポーツクラブが担っていたが、課題もあり2012年度から再び部活動として始めた（中日新聞、2013）。そのことが、2013年以降の指導者登録数の減少に関係している可能性がある。すなわち中学生を指導する目的で登録したもののそれが不可能になったため、新規登録をしない、更新をしないといった人が増えた可能性がある。

図4に総合型地域スポーツクラブ別の登録者数を示した。クラブによって登録者数にかたよがりがある。令和4年2月1日現在、各スポーツクラブの会員数は表1に示したように、会員数の多い乙川スポーツクラブ（以下乙川）と半田地区スポーツクラブ（以下半田地区）の登録者数が多いが、同様に

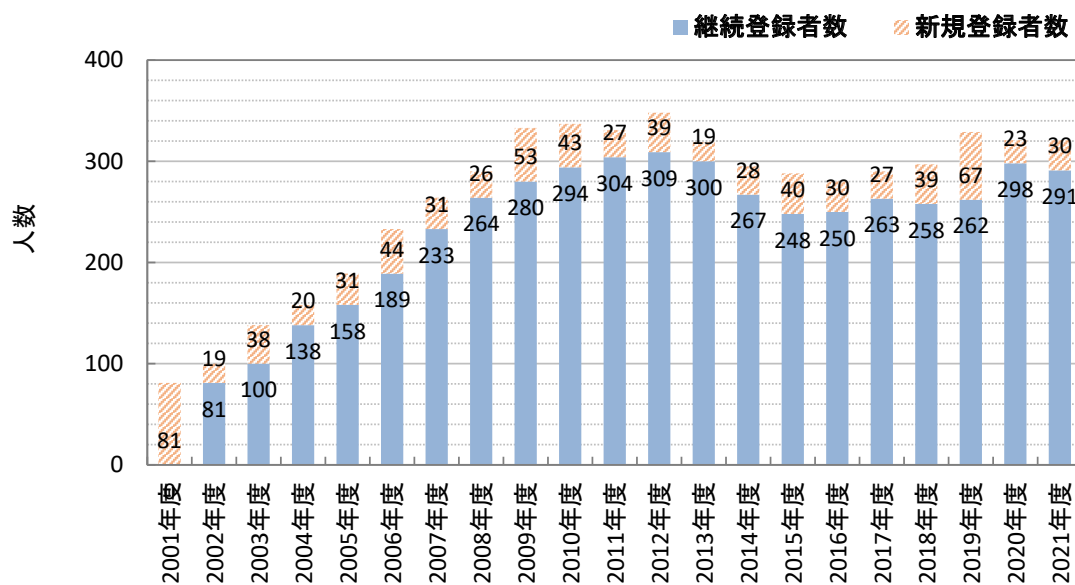


図3 スポーツアシスタント登録者数の推移

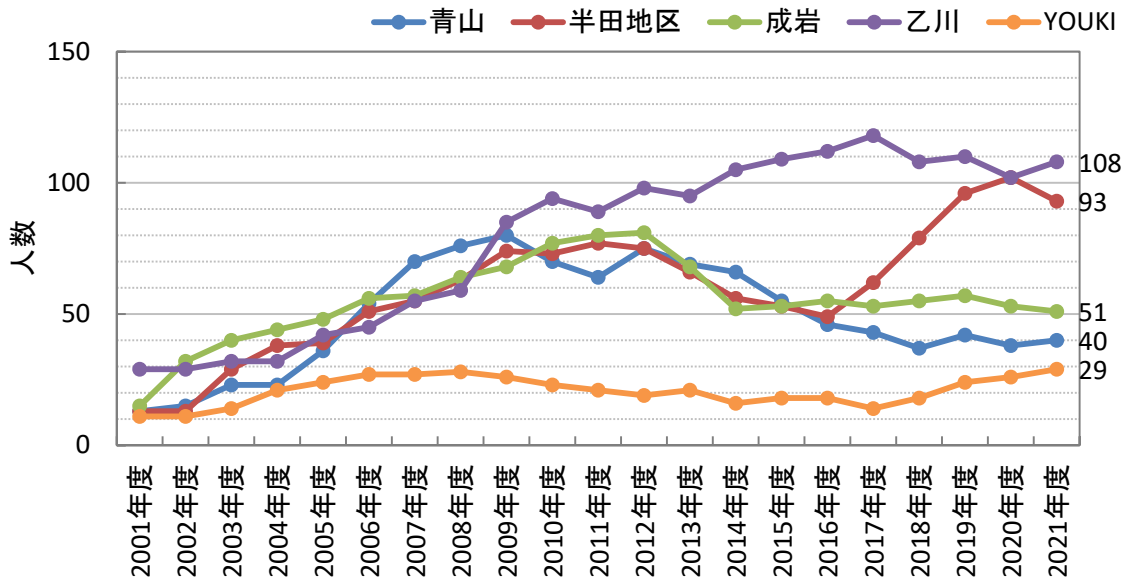


図4 スポーツアシスタント登録者数_年度推移_クラブ別

会員数の多いNPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ(以下ソシオ)の登録者はそれほど多くない。

半田市の総合型地域スポーツクラブは、クラブによって指導者に対する手当が異なっており、ソシオは800円/回、スポーツクラブYOUKI(以下YOUKI)、青山スポーツクラブ(以下青山)は設定なし、乙川は小学生の指導者のみ5,000円/年、半田地区はクラブ開催の教室のみ1,000円/回支払っている。ソシオのみスポーツアシスタントに指導状況に応じて手当を出しているものの、その他のクラブはほとんど手当は支払われていない。

スポーツアシスタントの研修会を受講した指導者の有効期限は3年間(2014年度までは初回受講者のみ2年間)で、更新研修会を受講しないと資格が失われてしまう。そこで初回登録年度から有効期限年度までの登録期間から算出した登録継続年数を3年ごとに集計した(表3)。その結果、登録期間3年以下の指導者、すなわち、一度も更新しない指導者が41.1%と最も多かった。次いで4~6年が24.4%と続き、更新が0回または1回の人全体の6割以上を占めている。一方で10年以上継続して登録している指導者(3回以上更新)が20%以上と、長期的に指導に携わっている方も一定数存在していた。

表3 登録年数 (n=755)

登録年数	n	%
2~3年	310	41.1
4~6年	184	24.4
7~9年	84	11.1
10~12年	51	6.8
13~15年	45	6.0
16~18年	29	3.8
19~21年	41	5.4
22年以上	11	1.5

2. 登録指導者の性、年齢、指導種目

表4に、のべ登録指導者(n=755, 2001~2021年度)の性、クラブ別人数を示した。男性が75.9%と3/4を占め、クラブ別登録指導者数では、乙川が最も多く全体の30%、次いで半田地区が25%で、青山、ソシオと続き、YOUKIが最も少なく10%未満であった。

新規登録時の年齢(図5)は、40歳代が43.2%と最も多く、次いで30歳代29.0%と、両年代で7割を超える。

指導種目(図6)は14種目を超え、最も多い野球の登録者は234名とのべ登録指導者数の3割を超える。次いでサッカーが97名(12.8%)、バレー

表4 性別・クラブ別登録者数 (n=755)

		n	%
性別	男	573	75.9
	女	182	24.1
	合計	755	100.0
スポーツクラブ	乙川	226	29.9
	半田地区	192	25.4
	青山	164	21.7
	成岩	114	15.1
	YOUKI	59	7.8
	合計	755	100.0

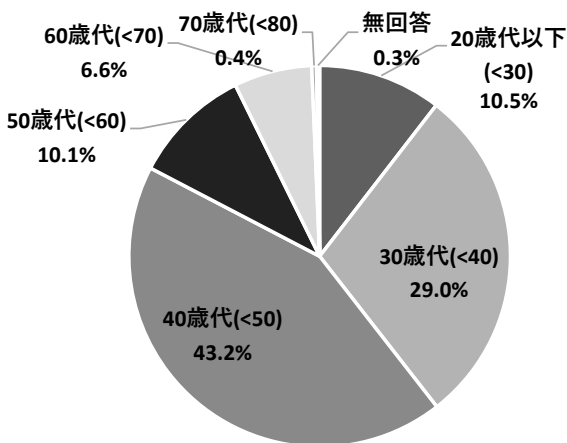


図5 新規登録者の年齢 (n=755)

ボール 79名 (10.5%) と続く。子どもを対象とした種目が多い中、レクスポーツには、ソフトバレー、インディアカ、カローリングなどが含まれ、中高年を対象とした種目も一部見受けられた。

3. 指導者研修会 (スポーツアシスタント養成研修会) 参加者アンケートの結果から

ここ5年間に実施したスポーツアシスタント養成研修会の参加者アンケートの結果を集計した。このアンケートは各研修会終了時に参加者全員が回答している。その中から、指導対象、参加動機、満足度および今後受講したいテーマについて報告する。

まず、指導対象者 (表5) は、90%が小中学生で、次いで幼児 9.3%、中高年 6.4%で、ほとんどの指導者が小中学生を指導している。参加動機 (表6) は資格更新や取得のために最も多く 90%、自己研鑽のために 20%、プログラムへの興味が 10%であった。本研修会がスポーツアシスタントの資格取得・更新のために開催されているので、当然の結果ではあるものの、研修会への興味関心、自己スキルアップを目的として参加している方も一定数存在している。研修会の満足度 (図7) は、「大変満足」「満足」と回答した割合が9割を超えた。資格更新のためとはいえ、多くの指導者が受講に対し高い満

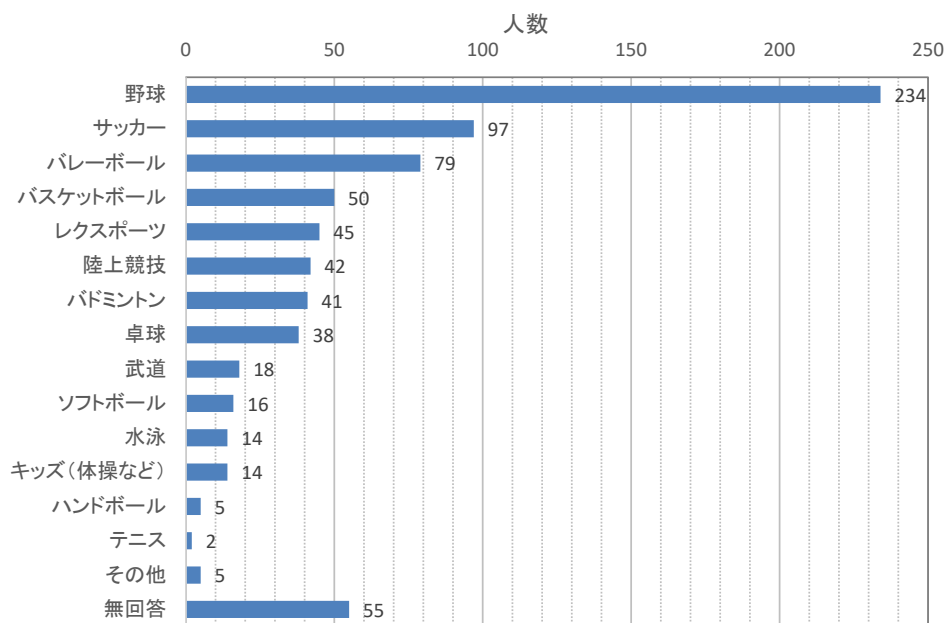


図6 指導種目

表5 スポーツアシスタント養成研修会参加者の指導対象（複数回答）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均
幼児(%)	7.7	4.9	16.9	8.3	8.8	9.3
小中学生(%)	84.6	85.4	86.4	97.6	91.2	89.0
高校生(%)	0.0	0.0	1.7	4.8	3.3	2.0
中高年(%)	6.2	6.1	8.5	6.0	5.5	6.4
その他(%)	1.5	3.7	3.4	2.4	3.3	2.9

表6 スポーツアシスタント養成研修会参加動機（複数回答）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均
資格更新あるいは取得	89.2	76.8	72.9	88.1	90.1	83.4
自己研鑽	12.3	17.1	25.4	16.7	23.1	18.9
プログラム内容	10.8	15.9	13.6	8.3	12.1	12.1
所属グループの代表として	4.6	12.2	15.3	9.5	4.4	9.2
仕事の一環	1.5	12.2	6.8	0.0	3.3	4.8
その他	0.0	0.0	0.0	1.2	2.2	0.7

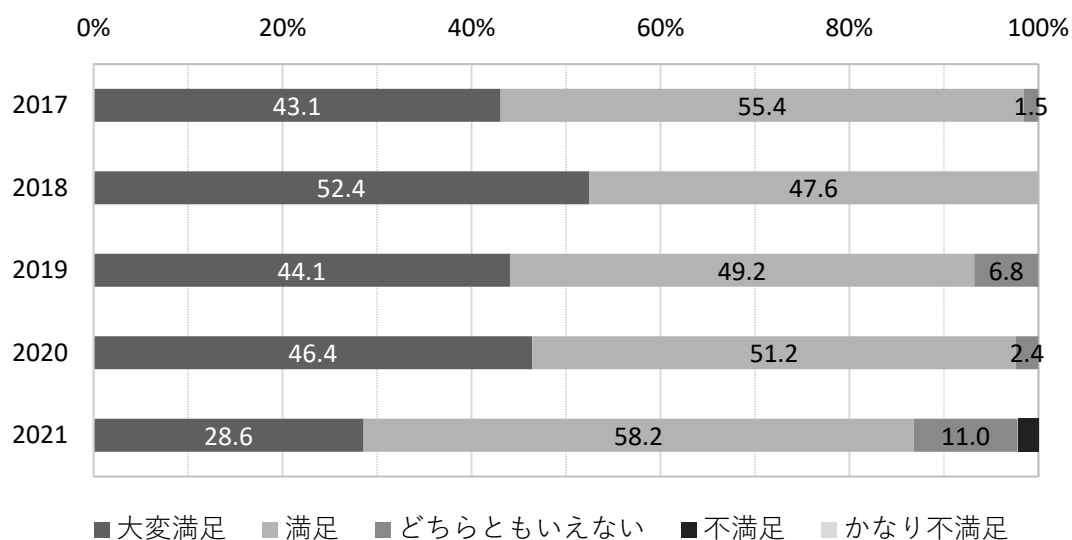


図7 研修会の満足度

足度を示した。

今後受講したいテーマについては、次の5分野が主に挙げられた。

- ①スポーツ障害、外傷の予防（テーピングやストレッチを含む）
- ②スポーツ栄養，食育
- ③種目別トレーニング
- ④親との付き合い方，対応（モンスターペアレント対策）

⑤子どもの心理面の理解（しかり方，やる気を起こさせる方法など）

実をいうと③以外はこれまで1回以上取り上げたテーマであるが，全ての指導者が受講できるわけではない。要望が高いテーマは定期的に取り上げていく必要がある。また，③種目別トレーニングについては，現状の形態では実施が難しいため，今後の重要課題である。

IV. 今後の指導者養成に向けて

総合型地域スポーツクラブの実態調査（スポーツ庁、2021）によれば、クラブ所属のスポーツ指導者のうち「有資格者」が46.3%をしめ、そのうち日本スポーツ協会公認指導者が39.2%、日本パラスポーツ協会公認資格が2.7%、その他機関の資格が58.1%であった。すなわち、総合型地域スポーツクラブの指導者の約半数が何らかの資格を保持していることになる。半田市ではこの資格を市が独自に認定するという特異的な指導者養成を行ってきた。

半田市認定の地域スポーツアシスタント（以下認定SA）は、5つの総合型地域スポーツクラブの指導者を対象とした半田市独自の指導資格で、更新のための研修会もある。この制度が持続的に実施できている理由は、まずは半田市が事業費を補助していることが挙げられるが、それだけではない。各クラブが認定SA資格の取得を勧めており、スポーツ指導者の資質向上に力を入れている点も挙げられる。今後さらにこの制度が充実していくためには何が必要なのか、最後に課題をまとめる。

まずは研修会のテーマの工夫である。要望が高いがこれまで実施できていないテーマ、たとえば指導者間交流や種目別トレーニングについて検討したい。通常の研修会でなく、イベントとして実施する方法もある。

次いで指導者の安定的な数の確保と質保証である。現在300名程度の認定SAがいるが、クラブによって人数にばらつきがある。また認定SA資格の有無を問わず指導者として活動できるクラブもあり、足並みをそろえられないクラブの事情もある。一方、指導者に対し手当を支給しているクラブはソシオのみだが、総合型地域スポーツクラブの実態調査（スポーツ庁、2021）によれば、有資格者に手当を支給しているクラブが52.4%と半数以上を占めていた。指導者の質と謝礼（手当）の問題は各クラブの財政事情をふまえ今後検討する必要がある。

加えて、更新する者の増加、若い指導者や女性指導者の獲得なども検討すべきである。これは種目と

の兼ね合いがあるものの、地域のスポーツ指導者の価値や魅力をアピールしていきながら、増やしていくことが必要である。

最後に、部活動の地域移行（スポーツ庁、2022）にともなう総合型地域スポーツクラブの役割である。半田市においても、部活動の受け皿として総合型地域スポーツクラブへの期待は大きいと考えられるが、スポーツ指導者の質・量の確保、スポーツ施設の確保、会費のあり方など課題が多いことも事実である。今後認定SAが、専門性や資格を有する部活の指導者として活躍できるよう、まずは、半田市独自の資格である認定スポーツアシスタントの養成を継続するとともに、充実した研修会のプログラムを提案していくことが引き続き重要であると考えられる。

引用文献

- 榎原孝彦（1996）《事例》地域コミュニティの核としての成岩スポーツクラブ、スポーツと健康、20-22。
- 榎原孝彦（2000）《事例》半田市全域で“子どもたちとスポーツと街づくり”－半田スポーツ健康推進協議会（CLUB2000）の取り組み－、スポーツと健康、23-26。
- スポーツ庁：総合型地域スポーツクラブ https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/list/1371972.htm（2022/10/03 参照）
- スポーツ庁（2021）：令和3年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査（調査結果概要）chrome-extension://efaidnbnmnibpcjpcglclefindmkaj/https://www.mext.go.jp/sports/content/20220524-spt_stiiki-300000800_3.pdf（2022/10/03 参照）
- スポーツ庁：部活動の地域移行に関する検討会議提言について、https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/001_index/toushin/1420653_00005.htm（2022/10/03 参照）
- 「地域クラブとの連携に注目、閉鎖性解消へ一役」中日新聞朝刊 2013年3月4日（中日新聞東京新聞記事データベース）
- 半田市教育委員会（1998）総合型地域スポーツクラブのある町－愛知県半田市成岩スポーツクラブ－、教育委員会月報／文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課〔編〕50（7）、7-10。

半田市：第3次半田市スポーツ推進計画（令和3年度～令和12年度）「エンジョイ SPORTS はんだプランー生涯スポーツ社会の実現に向けて」, chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.city.handa.lg.jp/sports/bunka/leisure/shisaku/documents/sportssuishin_honpen.pdf（2022/10/03 参照）

半田市報（2016（平成28年）4／1），NO.1425，p5：chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.city.handa.lg.jp/kikaku/shise/koho/shiho/h28/documents/1425.pdf